

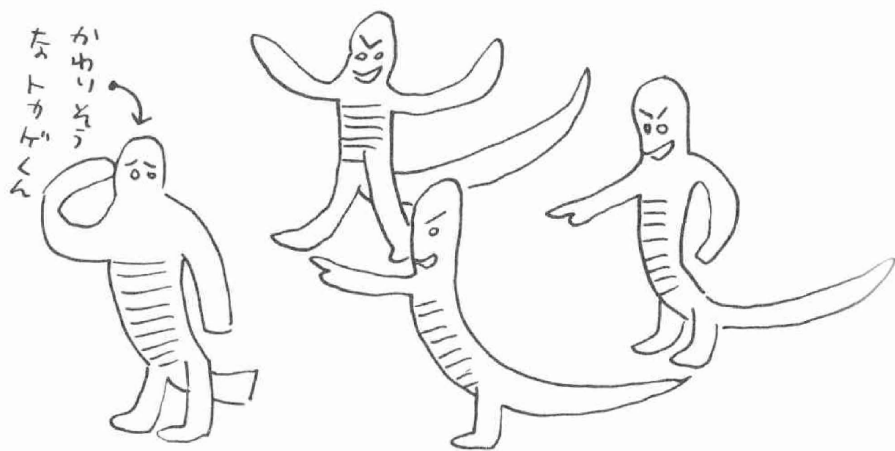
とかげの話

前回、前々回としつこく蟻の話を書いたけれど、今回はとかげの話。

僕のうちはわりに（というか、かなり）田舎にあるので、まわりにとかががいっぱい住んでいる。とかげというのは外見からしてあまり人に好かれるタイプの動物ではないけれど、べつにこれといって人間に害を与えるわけでもないし、虫を食べてくれるし、よく見ているとちよつとシャイなところもあって、決して悪い性格のものではない。

しかしうちで飼っている二匹の猫はとにかくとかげいじめが三度のメシよりすきで、何かというとかげをいたぶって遊んでいる。とかげの方はいたぶられるのはたまらないから、すぐに尻尾を切つて逃げる。自然界というのは実にミステリアスなもので、猫は十回のうち十回までとかげの本体を追いかけず、切られた尻尾の方に拘泥してしまう。どうしてなのか理由はわからないけれど、猫は切られてピクピクと動いている尻尾の魅力には絶対に抗しきれないのである。そのようにしてとかげは生きのびるわけだ。

だから僕はつい最近までとかげは偉いと思っていたのだけれど、このあいだ科学雑誌を読んでいたら、とかげはとかげでなかなか辛いのだという記事が載っていた。



どういふことかというところ、尻尾を失くしたとかげは仲間うちでかなりいじめられるらしいのである。尻尾のないとかげは尻尾がないというだけで馬鹿にされて縄張りも半分くらいに削られ、雌にも相手にされず、尻尾がきちんと生え揃うまでものすごく暗い生活を送ることになる。

こういう記事を読むと、とかげというのは本当にかわいそうな動物だと思う。尻尾が失くなれば仲間うちでいじめぬかれることがわかっていても、なおかつ尻尾を切つて猫から逃げねばならぬという哀しい性は、とかげとか人間とかいったジャンルをこえて切ない。これからは冗談で尻尾をひっぱったりするのはやめて、もつと暖かい目でとかげを見守つてやりたい。